

助成事業実施報告書

団体名 札幌市福祉生活支援センター

代表者・役職名 氏名 事務局次長 丹野 聖美

1. 助成プロジェクト名

自立援助ホーム入所者への対応と職員のメンタルヘルス対策に関する研修会

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

生活弱者の社会的・経済的自立をはかるためセーフティネットの役割を担うとともに、地域福祉の向上に寄与することを目的として、「就労による自立」「日常生活における自立」「地域社会の一員として充実した生活を送る自立」の理念を掲げて平成 19 年に設立。現在職員は 19 名。

青少年自立援助ホームたんぽぽ苑は平成 22 年に開所。6 名の職員が児童の支援にあたっている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

厚生労働省より発表される児童虐待相談対応件数が増加の一途を辿っており、親だけではなくホームの職員が虐待を行うというニュースを目にすることも増えています。こうした背景から、職員・ボランティアスタッフ自身の知識の向上を図るとともにメンタルヘルス対策をしっかりと行い、入所者への適切な対応ができるような現場作りをすることは非常に重要であるといえます。職員が安定して入所者に支援業務を行うことで、1 人でも多くの児童が巣立ち、新たに問題を抱えた児童を受け入れ自立させていくというスムーズな流れを確立させることが目的です。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

専門講師による講義とパネラーとしてお迎えしたキャリアカウンセラー・社会福祉士・精神保健福祉士の先生のパネルディスカッションを、平成 30 年 8 月と平成 31 年 1 月の 2 回にわたって実施。特定社会保険労務士の講師からは職場において労働者が守られるべき権利や近年増加しているハラスメント・労働災害についての講話、医学博士の講師からは精神衛生の守りかたやストレス軽減の方法についての講話をいただきました。パネラーとして各回 2 名の先生をお迎えし、実際の支援経験を絡めた児童の支援手法やストレスケアについて、講師とディスカッションをしていただきました。最後に参加者からの質疑を受け付け、意見の共有を行いました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

8 月・1 月ともに 30 名を超える参加があり、現場で働く中で自分たちの抱えてきた悩みやストレスを共有し、その対処法を学ぶ貴重な機会となりました。研修会で得たことを活かすよう、限られた勤務時間の中で、短い時間であっても積極的にミーティングを行うよう努めています。入所者の状態について現場がこれまで以上に細かく把握できるようになり、支援に関する意見や提案が多くあがるようになりました。自分たちの思いも語り合い、これまで以上に活発な意見交換が出来る職場になったことで、職員・ボランティアスタッフから「前向きな気持ちで勤務することが出来るようになりました」との声が寄せられております。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

職員とボランティアスタッフが全員揃っての研修会はこれまで頻度を持って実施することが出来ていなかったため、今回のプロジェクトは大変有意義な研修会となりました。実施後の意見として、講師を交えた少人数のグループワークを行う等、より密度の濃い意見交換が出来るようになったという声があり、次回以降の職員研修にて実施出来るよう努めていきたいと考えております。また、今回の研修会が無駄になることのないよう、定期的にミーティングを行うことで、バーンアウトの防止を図り、職員やボランティアが生き生きと長く働くことのできる職場作りを目指していく所存です。真如苑様のご支援、ありがとうございました。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

自立援助ホーム入所者への対応と 職員のメンタルヘルス対策に関する研修会

職員・サポーター・ボランティアスタッフの児童の対応能力の向上を目指して

平成30年

8月23日 木 14:00-15:30

札幌市北区北区民センター 講義室（2F）札幌市北区北25条西6丁目1-19

講師 細川 美穂先生

（社会保険労務士・認定キャリアコンサルタント）

パネラー 福井 亜希子先生（社会福祉士）

山田 慎哉先生（キャリアカウンセラー）

進行 丹野 聖美（精神保健福祉士）

真如苑助成事業

【主催】特定非営利活動法人 札幌市福祉生活支援センター

お問い合わせ

TEL: (011) -726-2829

MAIL : npo@fukushi-life.or.jp

基礎から学ぶ

自立援助ホーム入所者への対応と 職員のメンタルヘルス対策に関する研修会

職員・スタッフの児童への対応能力の向上育成研修会 プログラム

14:00
講演

「組織運営に係る人材育成について」
講師 細川美穂（社会保険労務士）

14:40
パネルディスカッション

パネラー 福井亜希子（社会福祉士）
パネラー 山田慎哉（キャリアカウンセラー）

15:20
意見交換会

講師陣と参加者との質疑応答

15:30
交流会

任意参加

日 時：平成30年8月23日（木） 14:00 – 15:30

会 場：札幌市北区民センター 2階講義室

【協賛】 真如苑助成事業
【主催】 特定非営利活動法人 札幌市福祉生活センター

自立援助ホームとは？

※法的位置づけ

児童福祉法第6条の3、同法第33条の6において「児童自立生活援助事業」として規定され、社会福祉事業法の第2条で「第二種社会福祉事業」に位置付けられています。

義務教育終了後、児童養護施設・里親・児童自立支援施設などの社会的養護の措置を解除された青少年及び都道府県知事が認めた青少年に自立のための援助及び生活指導を行います。

※対象となる方

義務教育を終了した15歳から20歳までの児童で、自立のために援助を必要とする方。

※全国の自立援助ホーム数

156ホーム。

うち、北海道には12か所のホームがあり、札幌市内だと3か所。

(全国自立援助ホーム協議会調べ)



青少年自立援助ホームたんぽぽ苑

※活動趣旨

次代を担う青少年に対し「就労による自立」「日常生活における自立」「地域社会の一員として充実した生活を送る自立」を生活目標に、児童の福祉向上と健全育成を図るため最大限の支援活動を展開しています。

※支援内容

①就労支援

キャリアカウンセラー等の指導のもと、職場開拓に努めるとともに、必要に応じてハローワークや事業所へ同行するなどの就労支援を行っています。

②生活支援

健康管理、金銭管理など日常生活についての助言及び心身の状況や生活歴の把握に努め、その児童にあった適切な生活指導を行っています。

③関係機関との連携

児童相談所及び必要に応じて医療機関や子ども家庭センター等と連携をしながら支援をしています。

※現在の入所者

2018年8月現在、男性5名・女性1名が入所しています。





【協賛】 真如苑助成事業
【主催】 特定非営利活動法人 札幌市福祉生活センター

職員・サポーター・ボランティアスタッフの児童の対応能力の向上を目指して

自立援助ホーム入所者への対応と 職員のメンタルヘルス対策に関する 研修会

日時 平成31年1月31日 木

13:30~16:00

場所 札幌市北区民センター 講義室（3F）
（札幌市北区北25条西6丁目1-19）

講師 新川 加奈子先生（桐生大学医療保健学部教授）

パネラー 加藤 尚子先生（精神保健福祉士）
大滝 栄一先生（キャリアカウンセラー）

進行 丹野 聖美（精神保健福祉士）

お問い合わせ (011) -726-2829
npo@fukushi-life.or.jp

【協賛】 真如苑助成事業

【主催】 特定非営利活動法人
札幌市福祉生活センター